

コロナ禍でもつながる子育て支援への第一歩！

～地域子育て支援拠点におけるオンライン活用の手引き～

1 コロナ禍における子育て家庭の現状

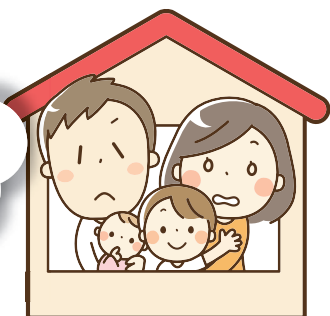
新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、令和2年3月から6月には、県内のほとんどの地域子育て支援拠点（以下、「拠点」という。）で、親子の交流の場の提供やイベントなどの直接顔を合わせて行う子育て支援が中止されました。

現在も、参加人数や利用時間の制限を設けるなどの対応をする拠点もあり、感染拡大防止に配慮した運営が行われています。

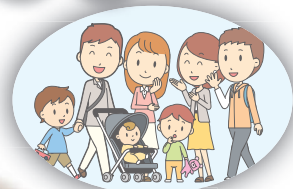
核家族化が進み、地域のつながりが希薄化している中、これまでのように身近な場所で気軽に集い、交流や相談ができる拠点を利用できないことで、乳幼児のいる子育て中の保護者などの子育てに対する不安感、孤立感の増加が心配されます。

こんな声はありませんか…？

在宅での子育てによる不安感が増大している



育児の悩みを共有できる場所が無くなってしまった



孤独な育児のストレスにより子どもに強くあたってしまう

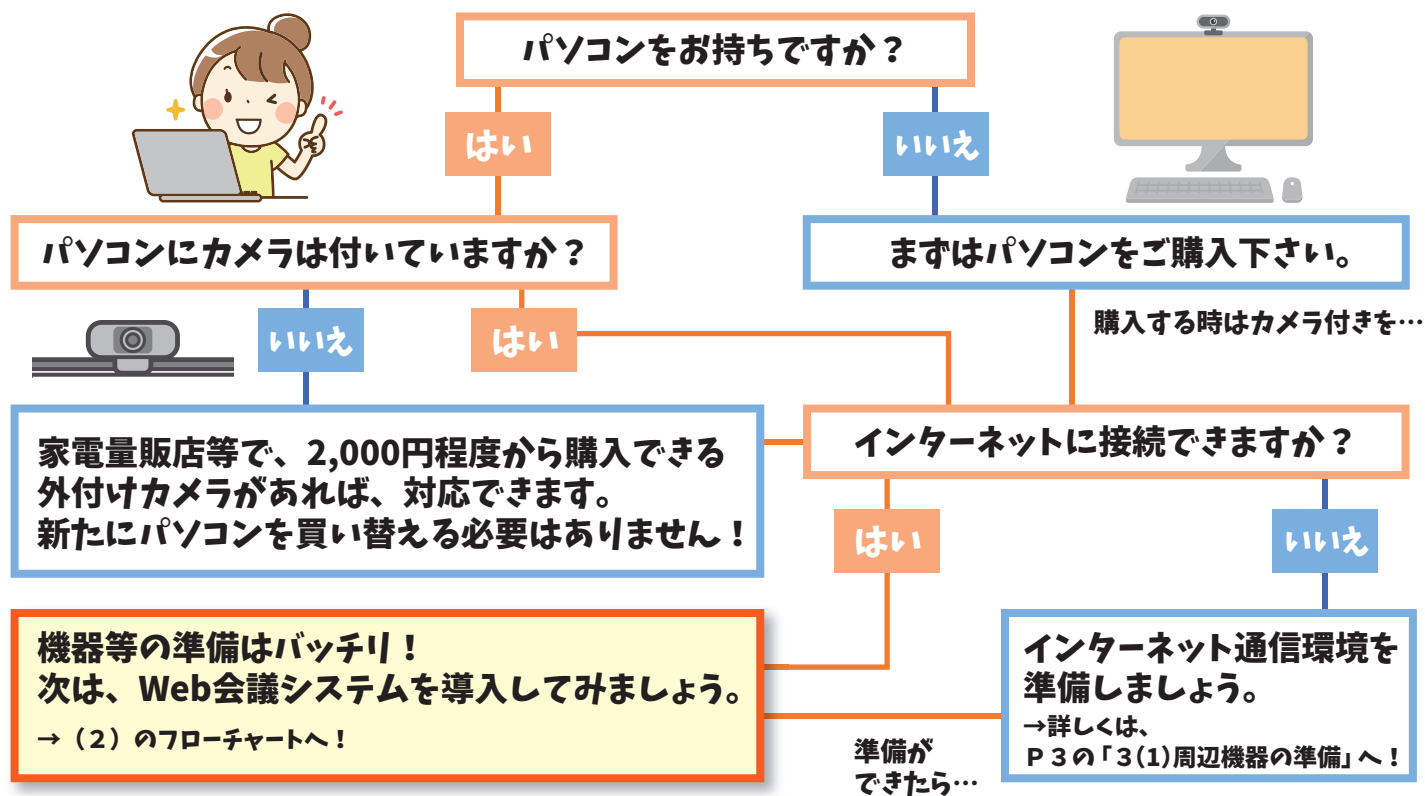


拠点において、オンラインを活用することで、自宅にいる子育て中の親子と顔を見ながら会話ができ、気分転換や悩み解消につながります。

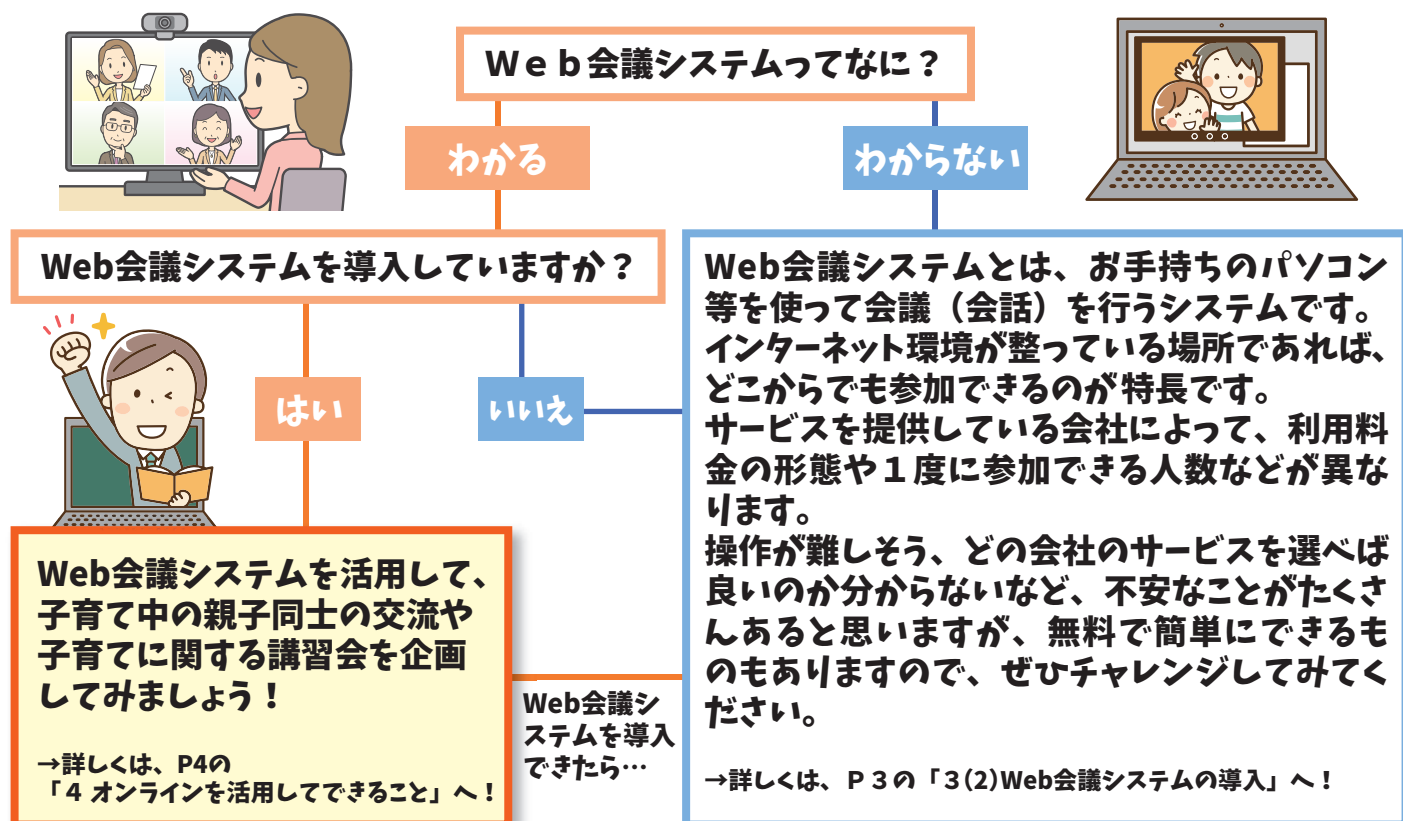
これからは、子育て支援の在り方も新しい生活様式に沿って、様々な手段を検討することが必要です。これまでの対面による子育て支援に加えて、オンラインで子育て支援ができる環境をつくりませんか？

2 オンライン活用に向けてのフローチャート

(1) 周辺機器の準備編



(2) Web会議システムの導入編



3 事前準備まとめ

(1) 周辺機器の準備

- ・パソコンまたはタブレット端末 (iPad など)
- ・インターネット通信環境

(Wi-Fi ルーター (無線で通信するための端末機器) があれば場所を問わず開催できます。)

カメラ付きのものが重要です!

※カメラが付いていない場合でも、
外付けカメラを接続することで
対応できます。

※参加する親子は、スマートフォンからでも参加できます。

※持ち運ぶことのできるモバイル Wi-Fi ルーターやコンセントに挿すだけで利用できるホームルーターがあれば、工事不要でインターネット環境を整えることができます。

詳しくは、家電量販店等やインターネット通信会社までお問い合わせください。

(月々使用料の目安：3,000 円～6,000 円程度)



(2) Web会議システムの導入 (サービス提供会社との契約)

例) Zoom (ズーム)、Skype (スカイプ)、Google Meet (グーグル ミート) など

※Web 会議システムを使用すれば、親子が自宅にいても、拠点の職員や他の親子とお互いに顔を見合わせながらコミュニケーションをとることができます。パソコンだけでなく、スマートフォンからでも簡単に参加することができます。



**無料で使える
Web会議システムもあるので、
まずは試してみましょう。**

**Zoom (無料版) の場合、
1回40分以内という制限がありますが、
無料版を活用している拠点も
多くあります。**

**様々な制限なく利用できる
有料プランでも、月々2,000円程度の
費用で利用可能です。**



(3) 雑音の入らない場所

用意できれば静かな
個室が好ましいです。

**家電量販店等で購入できる
マイクやイヤホン(2,000円程度から
購入できます。)があると、
より音声がクリアになります。**

4 オンラインを活用してできること

- 1対1または複数の方と気軽に悩みを相談
- 親子同士の交流
- 子育てに関する講習会
- 子育て支援情報の発信

など、普段から拠点で行っていることがオンラインでもできます。



● 円滑にオンラインを活用するためには、ルール作りが必要!

★参加人数は何人までに
しますか？

↓
交流会の場合は、
4組程度がおすすめ

★告知は
どうやってしますか？

↓
ex) ホームページ、
ブログ、LINE等の
SNSなど

★テーマは何にしますか？

↓
ex) オンラインを活用した
ひろばの開催、
マタニティ交流会、
離乳食講座など

★禁止事項を決めましょう！

↓
プライバシー保護のため、
スクリーンショット（画面の撮影）や
録画・録音は
お断りしましょう。

★開催時間は
どれくらいにしますか？

↓
子どもが一緒の場合は、飽きない
くらいの時間設定にしましょう。
（例）歌遊び…15分～30分、
講習会…60分程度がおすすめ

レッツトライ!

まずは、職場の同僚やご友人と練習してみましょう。
音声・映像が上手く繋がらない、人数が多すぎて対話が
しにくいなど課題が見つかるはずですよ。

5 オンラインを活用した子育て支援の流れ

STEP 1 企画をたてよう!

実際の拠点で実施している基本4事業の中のどの事業を実施するか決めましょう。内容によって、時間や定員を検討します。交流会など複数の参加者で対話するものを実施する場合、人数が多すぎると対話が難しくなるので注意しましょう。

基本4事業

- ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談、援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

STEP 2 お知らせしよう!

ルール作りで決めた告知方法により、「オンラインひろば」などの開催日時、定員、受付期間、使用するWeb会議システムなどをお知らせしましょう。

STEP 3 申込を受け付けよう!

電話、メール、FAX、インターネットなどで参加申し込みを受け付けます。定員に達した場合、先着なのか抽選なのかも決めておきましょう。

STEP 4 参加者とテスト接続してみよう!

参加者が決定したら、1度きちんとつながるかテストしてみましょ。お話する人以外は、音声をミュート（消音）にするなどのルールやWeb会議システムの操作方法などを参加者と確認しましょう。

STEP 5 いざ本番!

始める前に、途中で通信が途切れることが無いようインターネット通信環境を再度確認しましょう。参加者が入室したら、まずは声を掛けてリラックスした雰囲気を作りましょう。自己紹介や当日の流れを説明して、いよいよスタートです。

会話をするときには、うなずきや身振り手振りを入れるなど、対面の時よりも反応を大きめにするとうわりやすくなります。

音声がつながりにくい場合は、適宜チャット機能を活用することもできます。

STEP 6 参加者から感想を聞きましょう!

次回の開催に向けて、最後に1組ずつ感想を聞くほか、後日アンケートを実施し、改善点を見直していきましょう。

6 オンラインひろばを開催する場合の進め方(例)

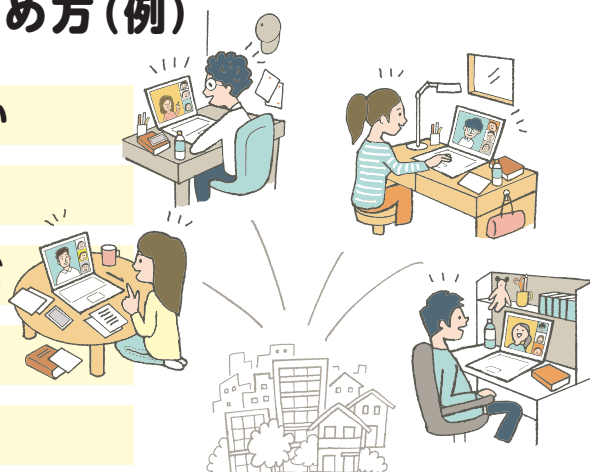
①挨拶・Web 会議システムの操作方法のおさらい

②自己紹介・スケジュールの確認

③交流会・テーマに沿ったトーク・みんなで手遊びなど

④本日の感想や質問タイム

⑤拠点からのお知らせ（次回の開催案内など）



● コロナ禍ではもちろん、収束した後もオンラインを活用することのメリット ●

ビデオや音声を自由に停止できるので、おむつ替えや授乳が可能

里帰りしていても参加できる
(遠隔地においても参加可能)

自宅から参加できるため、移動時間の短縮になる

● オンラインを活用するときに気をつけること ●

インターネットの通信環境によって音声や映像が乱れる場合がある

開始する前にスタッフでテスト接続をするなど、インターネット通信環境を確認しましょう！

対面での会話と違って相手の表情や雰囲気分かりづらい

画面上でも伝わるように、大きくうなづくなど、リアクションを大きくとりましょう！

7 実際に子育て支援にオンラインを導入している事例

事例① オンラインマタニティスクール

❖ 目的 ❖

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行政等が実施する「両親学級」や「母親学級」が中止となり、妊産婦等に産前産後についての情報や知識を提供する場が不足している。

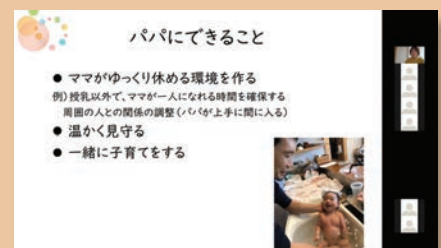
助産師等の専門家の知識と子育て支援情報も含めた内容をオンラインで提供することで、妊産婦の出産や子育てに対する不安感や孤立感を軽減する。

❖ 内容 ❖

- 妊産婦を対象とした助産師による講話や、質問・交流を「Zoom」を活用して実施。(開催案内へZoomに関する説明を詳しく表記)
- 「Zoom」の説明や自己紹介、講師紹介等の導入部分や子育て情報の提供、講座終了のあいさつは、ひろばのスタッフが行う。
- 講師はパワーポイントの資料を画面共有し、講義する。(1時間程度)
- 質問・交流(30分程度)
- 産後のイメージが具体的になるよう、経産婦の妊婦さんにも参加してもらっている。

❖ 実施して良かったところ

- 参加された妊婦の方々からは、「自宅でリラックスして安心して参加でき良かった」との感想があった。また、ビデオ画面を切って音声だけでも参加できるため、パートナーと一緒に気楽に参加することができていた。
- 里帰り出産で遠方にいる方や、移動が難しい状況の方でも、体に負担をかけずに参加できる。
- 産婦人科医院での妊婦同士の関わりが少なくなっている中、オンライン上で交流が生まれ、安心感に繋がっている。
- 地域子育て支援拠点が、妊娠期からご家族との繋がりを持つことによって、産後の子育ての不安解消や孤立化を防ぐことができる。



オンラインで実際に実施している画面



開催案内

事例提供：認定NPO法人さめきつずコムシアター「コムコムひろば」

事例② 「Zoom」を活用した歌遊び&交流

❖目的❖

コロナ禍の外出自粛により、家庭内で煮詰まっている親子に、子どもと遊ぶきっかけとして、地域子育て支援拠点スタッフの得意分野を活かした【歌遊び】の時間を提供する。参加した親子と画面越しに顔を見ながら会話をすることで、孤立気味な家庭とつながりを持つことができる。

❖内容❖

- 「Zoom」を活用して、スタッフによる手作りのペープサート（紙人形劇）に合わせて歌を歌ったりお話をしたりする。
- 時間 15分
- スタッフ2名、参加定員5名
- 留意点：読み聞かせなど著作権に触れるものは行わない。
あらかじめ「Zoom」の使い方の説明や接続テストなどの期間を設けて、参加者の不安を取り除く。

❖実施して良かったところ❖

- 天候やコロナに対する不安等の理由により、拠点に来ることが困難な家庭でも、自宅から参加できるため、子どもの普段の様子を見ることができる。また、ママは授乳しながらでも参加できる。
- スタッフのサポートにより、画面上でも参加者同士の自己紹介や近況の共有などの交流ができる。
- オンラインで繋がっておくことで、次回拠点に来た時に声掛けや繋がりが継続ができる。
- 最近の拠点の様子やお知らせしたい案内（他の「Zoom」を使ったイベントや、発達や生活リズムなどの動画配信など）も含めて案内することが可能になる。



オンラインで実際に歌遊びを実施している様子

事例提供：認定 NPO 法人わははネット「わはは・ひろば高松」

最後に

コロナ禍において、誰にも子育ての悩みを相談できず、不安を感じている家庭に寄り添えるのは、やはり身近な地域の子育て支援施設です。これからは、これまでの対面での子育て支援を重視しつつ、オンラインも活用することで、支援の幅が広がり、より多くの子育て家庭を手助けすることができるのではないかと考えます。

この手引書をきっかけに、ぜひチャレンジしていただければ幸いです。

【お問い合わせ先】

香川県健康福祉部子ども政策推進局 子ども政策課
〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号
電話：087-832-3287 FAX：087-806-0207
E-mail：kosodate@pref.kagawa.lg.jp

この冊子の転載はご遠慮ください。
無許可の転載、複製、転用等は法律により罰せられます。